

## 日本史B

### 【解答】

#### I

解答1	解答2	解答3	解答4
c 蘇我馬子	d 物部守屋	b 日親	e 蓮如
解答5	解答6	解答7	解答8
a 関孝和	d 貞享暦	f 青鞞社	b 新婦人協会

#### II

解答A	解答B	解答C
古事記	日本書紀	管領
解答D	解答E	解答F
一色	オランダ風説書	唐人屋敷
解答G	解答H	
労働組合期成会	治安警察法	

#### III

問1
幕府は、江戸の株仲間外の商人らの <u>自由な取引による物価値下げを期待して</u> 、株仲間を解散した。しかし、物価騰貴の実際の原因は、生産地からの商品の流通量が減少して生じたもので、江戸への商品輸送量を乏しくしてしまったことから、かえって <u>逆効果</u> であった。
問2
この戦いで、 <u>大海人皇子は大友皇子を倒して勝利し、天武天皇として即位した</u> 。大友皇子は朝廷側で当時の有力中央豪族を従えていたが、乱の結果、有力中央豪族が没落し、 <u>強大な権力を手にした天武天皇を中心に、その後の中央集権的国家体制の形成が進んだ</u> 。

## 【学習アドバイス】

本学の入試は、4科目の選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となっている。各科目にかける時間配分は、出題の分量にもよるが、1科目につき50分前後の時間を解答時間として考えるべきであろう。

2020年度の問題は、6世紀のヤマト政権の発展から、大正時代の社会運動までが出題され、古代・中世・近世・近代とバランスのとれた出題内容となっている（2019年度は7世紀の律令国家形成過程から大正時代初期の政治まで）。分野では政治史を中心に、外交史・文化史・テーマ史で構成され、大問3題、大問Ⅰは語句の選択による空欄補充形式、大問Ⅱは語句の記述による空欄補充形式、大問Ⅲは120字程度の論述2題の構成となっている。本年も昨年と同様に年代配列問題は出題されなかった。

本学を目指す受験生は、全時代の学習が必要不可欠となる。政治史中心の出題になっているが、政治史に偏ることなく、政治史と関連させて外交史・文化史・テーマ史・社会経済史の学習が大切になってくる。

出題形式は、選択式・記述式が併用されている。選択式は語句の空欄補充、記述式は空欄補充・120字程度の論述に採用されている。問題のレベルは、高校の教科書・用語集の範囲内の標準的なものとなっている。特に選択形式の語句空欄補充問題では、空欄数に対して選択肢が多いので、迅速かつ確実に正解が導き出せるよう、一問一答集などを利用して、普段からの丁寧な学習を心がけよう。記述式の空欄補充問題も出題されている。出題されている語句は、全て教科書の太字の箇所であり、正確な漢字表記の解答を求められているので、一問一答集を利用する際に、語句を目で見ただけでなく、手を動かして語句を覚えていこう。またこの空欄補充形式の出題は分量が多くないので、あまり時間をかけないようにすることも重要である。

日本史で高得点を取るためには、教科書・塾や予備校のテキスト・用語集を活用しながら、語句・人名などの用語に関して、「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」を重点に置きながら進めていくとよい。そして最後に「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」まで吸収することで、さらに知識・理解が深まっていく。そのような学習は、本学の論述問題に確実に生かされてくる。

本学では、120字程度の論述問題が2題出題されおり（従来は100字程度）、論述問題の成否が合否を大きく左右するだろう。2020年度は、「株仲間解散令の狙いとその効果」「壬申の乱の結果と意義」が出題されている（2019年度は、「明治時代における殖産興業」「松方財政」）。本学の論述問題は、主に「事項」についての論述であるため、吸収した知識を「誰が」「いつ」「どこで」「何をしたか（なぜそうしたか）」「どのような結果になったか」「どのような影響を与えたか」という形にならぬとよい。受験の基本となる教科書は、そのような流れで記述されているので、太字以外にも注意して、熟読することが大切だ。そしてその内容を自分なりにまとめてみるとよいだろう。論述問題は一朝一夕での対応は難しいので、早めの着手が望ましい。論述問題のトレーニングとして、高校や塾・予備校の先生に基本的なレベルの用語の課題を出してもらい、添削指導をしてもらうのが最も効果的な論述対策である。最初は少なめの字数から始めて、徐々に120字まで字数を増やしていくといいだろう。それを繰り返すことにより、論述問題に対する不安が大きな自信へと変わり、合格へ大きく近づくことになる。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ずや良い結果が出るであろう。